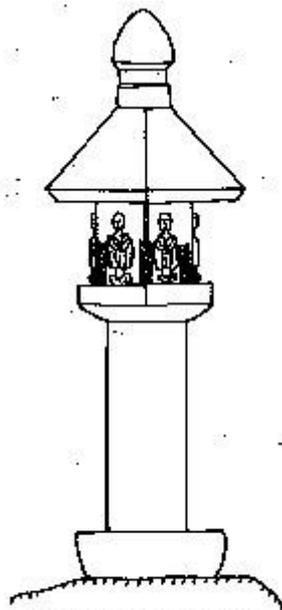


駒ヶ根市文化財

名称	蓮台場の六地藏石幢
種別	歴史資料
指定	市・有形文化財(昭和 45. 4. 24)
所在地	東伊那大久保
説明	<p>大久保の字蓮台場(れんだいば)、墓地はずれの一角に傾いて建っている。村人からは六面地藏塔、あるいは六角石灯笼と呼ばれているものである。形は基礎・幢身・中台・龕(がん)部・笠・宝珠からなり、一見して灯笼に似ているものの、幢身に節が見られず、龕部に火口がない。六角の各面には、それぞれ地藏尊を陽刻してあることなどから、重制の石幢と考えるのが妥当である。</p> <p>石幢(せきどう)の名の起こりは、寺院の須弥壇(しゅみだん)脇に飾りとしてさげる布製の幢幡(どうばん)が、石造物に変化したものといわれ、室町時代あたりから普及し、これが六地藏信仰と結びついて、龕部に六地藏を彫る形となったという。</p> <p>この石幢の笠と宝珠は花崗岩で、龕部以下の安山岩とは材質が異なり、宝珠については、一見しただけでもバランスを欠いている。多分別の塔から移したものであろう。なお、この石幢の笠の部分であったと推定されるものは、近くに保存されている応永の宝篋(ほうきょう)印塔群 5 基の右に配置されているものである。</p> <p>石幢の総長 155cm、幢身の部分に「応永二八年十口月口」の刻字があり、応永 28 年(1421)室町時代初期の作であって、近くに保存されている前記宝篋印塔と、ほぼ同時代であり極めて注目に値する。</p>



蓮台場の六地藏石幢

蓮台場の六地藏石幢